



富田地区コミュニティ再生事業 に本格的に着手します！

昨年、6月18日に高槻市を震源として震度6弱の地震が発生。

タウンスペース WAKWAK では震災当日から富田地域の災害拠点としての役割を果たすべく地元関係団体と協働して被災者支援の取り組みを展開。ふーどばんく OSAKA から届けられた緊急物資を避難所へ配達。翌日には、朝から仕分け作業をして市営住宅入居者を中心に高齢世帯126軒へ安否確認しながら支援物資を手渡しました。また、避難所生活者への長期支援として社会福祉法人つながりや地元関係団体との協働により昼食・夕食の提供や住まいの確保への支援を行いました。

この地震を通じて見えてきたのは、災害時ほど社会的弱者が地域で孤立してしまうという現実でした。

このような状況を踏まえ、私たちは町の次のワクワクする仕組みとしてハード面・ソフト面の両方からコミュニティ再生事業に本格的に着手します。

富田地区コミュニティ再生事業

未来にわたり住み続けたい町の姿を描く

次の五十年の町の景色にハード面・ソフト面から携わる



この事業は以下の2本柱で行います。

① 住まい編(住宅の建替)

子ども、大学生、障がい者、子育て世代、高齢者、外国籍の人までさまざまな声を集めたまちのプランを作成し、まちづくりにつなぎます。

② まちづくり編(長期的なコミュニティ再生)

余剰地の有効活用や子どもから高齢者を支える包摂の仕組の創出などまちの中の居場所づくりにつなぎます。



ここで得られたまちづくりのノウハウや知見を他地域の課題解決に活かしていきます。

大阪北部地震の災害支援の取り組みから見えてきた課題をもとに「未来にわたり住み続けたい町」をテーマにして、これまで培ってきた地域・家庭・学校・行政・大学・企業との連携によりコミュニティの再生へと着手します。

「誰も取り残さない」

まちの仕組みづくり



大阪北部地震で大きな損傷を受けた富寿栄住宅2棟の解体工事が完了。高槻市の建替計画では、跡地を活用して第1期建替工事が行われ、引き続き2期工事とあわせて19棟全棟の建替移転が予定されています。

災害時のご寄付に改めて感謝します。

昨年の大阪北部地震の災害支援時から6月現在まで641,790円の災害支援寄付および緊急物資等をいただきました。これらのご寄付は災害当日からの多岐にわたる支援に大切にに使わせていただいた他、コミュニティ再生事業へと使わせていただきます。

改めて心から感謝申し上げます。

01 富田わくわく食堂第5弾を実施

2018年2月23日(土)に「防災」をテーマに第5弾となる富田わくわく食堂を開催しました。

当日は、舞台発表として校区小・中学校の発表のほか、歯科衛生士さんによる親子で学ぶお口の健康のおはなしや人形劇「TOA 音のシアター」の鑑賞。

各コーナーでは元富田保育所保育士さんによる親子遊びや大阪ガス(株)提供による古代の火おこし体験や防災体験など多彩なコーナーを設置。のべ1,260名の方々にご参加いただきました。



【わくわく食堂第6弾のご案内】

- 日時:2020年2月22日(土)
- 場所:富田ふれあい文化センター(予定)
社会福祉法人つながり「サニースポット」
- テーマ:「未来にわたり住み続けたい町」

02 「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」 第10回市民団体助成プログラム



コミュニティ再生事業は、阪急阪神ホールディングスが行っている「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」の助成プログラムの支援を受け実施しています。

また、現在阪急・阪神両電鉄で「SDGs トrein 未来のゆめ・まち号」が運行されており、車内に当法人の活動のご紹介を頂いております。ぜひご覧ください。

03 コミュニティの再生に 大学生の声



多様な層の声を吸い上げていくためのスタートとして平安女学院大学短期大学にゲストとしてお招き頂き、学生さんから①町に住みたい理由②住まい編について意見を出して頂きました。今後、大阪人間科学大学や関西大学にもお招きいただく予定です。また、大阪大学ともOOS協定を結ぶこととなりました。今後大学生の様々な発想をまちづくりに活かしていきます。

- OOS(大阪大学オムニサイト)とは? 「共創知」を生み出す場をテーマに産官社学連携により、共生社会を創造していくための新たな仕組みのこと。

04 社会的企業の仕組



2019年5月30日に2018年度決算理事会・社員総会を開催。決算報告では財政改善計画に基づき着実に成果を上げ、自主事業収入50%以上の確保による経営安定化が図られ、当期純利益3,174,758円で決算を確定しました。

これにより社会貢献事業を主としながらも事務所経費や人件費を上げる社会的企業の仕組が実現化しました。

05 知見・ノウハウを発信



私たちが目指しているのは富田地域の課題解決のみならず、そこで得られた知見やノウハウを日本各地に発信することです。NHK 全国放送での放映や新聞記事などメディアへの掲載。昨年度、講師派遣や視察の受け入れ、学会での発表は63件、論文投稿や執筆は3件となりました。

●関西大学人権問題研究室にて子どもの居場所づくりについてまとめました。
「高槻富田地区包摂型のまちづくり」
(<https://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/handle/10112/16943>)

info

会員継続と支援のお願い

賛助会員として広く活動を支援して下さる方を募集しています。なお、正会員は社員として議決権を有します。

○正会員 (団体) 1万円 (個人) 5千円

○賛助会員 (団体) 1万円 (個人) 1千円

いずれも年額(1口)です。入会手続き(継続含む)と会費納入は同封の振替用紙をご利用ください。また、クレジットカードによるオンライン寄付サービスも導入しています。同封別紙をご参照ください。

(編集後記)

視察の受け入れの増加や講師派遣等、外での発信の機会が大幅に増えてきたことから今号から紙面のデザインを刷新しました。みなさまの引き続きのご支援をよろしくお願い致します。